



本物の音楽で紡ぐ子供たちの未来



「風船おじさん」を覚えていますか。1992年、風船ゴンドラでアメリカに向けて旅立った彼の目的は、環境のパロメーターである「鳴き砂」保護を訴えることだった。

彼、私たちの父は素晴らしい腕を持ったピアノ調律師だった。音、そして音楽に対する思い入れの深さから、汚れてしまうと鳴かなくなってしまう鳴き砂の音色、響きを守りたい。それは大好きな子供たちの未来

をも守ることにもなる。そんな思いと、風船をたくさん持ったら飛べるんじゃないかという子供のころの夢をかなえるため、大空へと飛び立っていった。いまでも、その思いを胸に空を飛び続けているのだろうと私たちは思っている。

2004年、ファミローザ・ハーモニー結成10周年の研修旅行の地として母がポルトガルを選んだのも、ヨーロッパ大陸の最西端で海沿いの国だ

からきっと鳴き砂があるだろう、探しに行ってみたいという理由からだった。

そこで私たちは、日本の専門家もうなせられた最高の鳴き砂を見つけ、子供たちへの思いを父と同じくする音楽家と出会った。北米の作家が提唱した音楽理論に基づき、各国で「赤ちゃんのためのコンサート」を開いているサンパ音楽学校のパウロ・ラメイロ校長(45)だ。今回のツ



映画「女王陛下の007」の撮影場所としても知られるエストリルの5つ星ホテル「ホテル・パラシオ」でのコンサート。007のテーマ曲をダンサーとともに共演